



2017・6・21

第 276 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

出足早く！安倍9条改憲批判の国民的運動を

安倍改憲論で事務局学習会

九条の会事務局は6月20日、学習会「安倍首相の改憲発言をめぐって」を開催しました。学習会では一橋大学名誉教授・憲法学の浦田一郎さんが「安倍首相の改憲発言―その憲法論的検討」と題して、一橋大学名誉教授・政治学の渡辺治さんが「安倍首相の改憲発言―そのねらいと危険性」と題してそれぞれ講演し、質問に答えました。(学習会の詳細は「ニュース次号」で。また講演の内容はパンフレットにして発行の予定です。)

「共謀罪」強行に怒り、抗議！

【岐阜県各務原市・九条の会各務原】各務原市の市民公園で6月15日夕、「共謀罪」法の強行採決に抗議する緊急集会が行なわれ、市民ら約60人が参加しました。

九条の会各務原会長の原田實さん、岐阜・九条の会世話人の吉田千秋さんらがリレートークし、委員会採決省略の禁じ手で「共謀罪」法を強行した安倍自公政権に強く抗議。「たたかいは終わりではなく、これからが始まり、あきらめずに廃止するたたかいにたちあがろう」と訴えました。

九条の会各務原の伊藤利明事務局長は、深夜未明まで抗議の声をあげ続けた国会内外の攻防を語りました。

集会アピール採択後、「共謀罪は絶対廃止」「追及逃げるな、ウソつくな」とコールし、デモ行進しました。

言論界も参加し抗議の意思表示

【青森県・県第九条の会など 12 団体】

『共謀罪』は許さない！」緊急青森県集会とパレードが6月13日、青森市で行なわれ130人が参加しました。第九条の会、憲法ネットあおもり、憲法守る青森県民の会、青森ペンクラブなど12団体の共催です。

第九条の会の金澤茂共同代表は「あきらめてはいけません。安倍政権打倒までがんばろう。青森の地から首相官邸に市民の怒りの声を響かせ、『がんばれ野党』の激励の声を届けよう」と呼びかけました。集会後のパレードで「廃案」の声を響かせていた鈴木彰さん(87)は、安倍退陣まで声をあげます」と語りました。

9条に自衛隊の規定追加は論外

【静岡市清水区・清水9条の会連絡会】

清水9条の会連絡会は6月3日第26回学習討論集会を行ないました。白井孝一弁護士が「共謀罪」の危険性について講演し、参加した33人が廃案に追い込もうと活発な討論を行いました。

鶴見實代表は、「憲法9条に自衛隊を書き込むなんて、矛盾したことまでして改憲を狙っている。共謀罪も改憲も阻止する動きを強めていこう」と訴えました。

参加者から、「駅前に建設計画があるLNG(液化天然ガス)火力発電所に反対する運動を押さえ込むような法案を阻止しよう」「学習し、運動し、安倍さんの手足を縛る行動をしていく」等の発言がありました。

視野を広げる連続憲法学習会

【大阪府・「九条の会・おおさか」】九条の会・おおさか憲法学習会第1弾が6月14日夜大阪市内で始まり、会場いっぱいの170人が参加しました。

大阪宗教者9条ネットワークの小倉義昭事務局長が開会あいさつし、大阪大学大学院の木戸衛一教授が「フランス大統領選挙・イギリス総選挙からヨーロッパの今後を考える」をテーマに講演し、ヨーロッパの政治状況を詳しく紹介しました。

フリージャーナリストの西谷文和氏が「今こそ平和憲法の輸出を」と南スーダン、シリアの最新取材を報告。戦闘で破壊された建物などを映像で紹介し、米ロ軍事産業がもうける仕組みをテロとのたたかいという名で推し進めていることなどを告発しました。

20代の女性は「テレビでは見ることのできないような映像を見て、シリアや南スー

ダンの現状のひどさが伝わってきた」と話し、60代の女性は「何が真実なのか、冷静な目を持ちたいと思った。ごまかされてはいけない」と語りました。

白馬を背にスタンディング100回

【長野県白馬村・白馬・小谷九条の会】

真っ青な空と強い日差しのなか、北アルプスのふもと、白馬村でつづけているスタンディングアピールが6月9日、100回目を迎えました。白馬駅前の宣伝行動には、白馬村、小谷村から32人が参加、のぼり旗や「共謀罪反対」のメッセージボードを掲げ通行する車に向けたアピール横断幕を新調しリレートークでも訴えました。

「今日は100回目なので都合をつけて参加した」という30代の男性もスピーチ。満州からの引き上げ体験を語る女性。「東京都議選に勝つことが、安倍政権の終わりにつながる」「共謀罪が成立すれば、こういうアピールもできなくなる」などと訴えました。

宣伝行動は、地元の白馬・小谷九条の会がよびかけ、市民団体などがこれにこたえ、2016年8月から毎週金曜日に続けられ、ニュースも発行してきました。

九条の会の速水政文さん(76)は、「憲法を守るため安倍政権を倒すまでつづける」と今後の意気込みを語りました。

核兵器禁止条約制定こそ9条の心

【長崎県・長崎県九条の会】長崎県九条の会は6月4日、「憲法9条が日本を守る」と題して長崎県内の九条の会第4回学習交流会を開き、約90人が参加しました。県九条の会事務局長の井田洋子・長崎大

学教授が基調報告し「共謀罪の新設は、政府が守るはずの国民を敵する体制になる」と、安倍首相の改憲発言を批判しました。

長崎大学の富塚明准教授は、陸上自衛隊の水陸機動団が来年佐世保に新設され、米軍と自衛隊が共同で戦うという危険な状況が九州・佐世保を中心に進行していると語りました。

「被爆者九条の会」の大塚一敏さん(10歳で被爆)が、弟とおいを原爆症で亡くした体験を語り、「核兵器をなくすまで簡単に死んでたまるかと生きてきた。9条を守りぬき核兵器禁止条約を制定させるために頑張りたい」と語りました。

毎週続く集団的自衛権批判の宣伝

【徳島県・九条の会徳島】 九条の徳島は6月9日朝、徳島市で戦争法を廃止し、憲法9条を守ろうとスタンディング宣伝を行ないました。20人が徳島駅前の元町交差点4ヶ所に立ち、「アイラブ憲法」、「憲法守れ」のプラカード、「許すな！集団的自衛権行使容認」などの横断幕を掲げてアピールしました。宣伝は集団的自衛権容認の閣議決定された後の2014年9月から毎月実施されています。

上地大三郎事務局長は、「自衛隊を憲法に書き込めば、9条がなし崩しにされる。中国や北朝鮮に対抗して軍備増強しても武力衝突は起りうる。攻めたり攻められたりしないために人類が獲得した9条の価値を広めたい」と語りました。

小さな組織が力合せ安倍退陣へ

【三重県尾鷲市・おわせ九条の会】

5月27日、三重県尾鷲市で、憲法施行70年記念の「憲法を考えるつどい」があり、名古屋大学名誉教授森英樹さんが、“どうなる憲法 どうする九条”と題して講演。「つどい」は、おわせ九条の会が市内の各団体、近隣の九条の会にもよびかけ、実行委員会として主催。約110名の方が参加。森先生は、北朝鮮情勢などにも触れながら「9条を持つ日本こそが対話のリーダーシップを発揮すべきなのに、安倍政権は主要国の中で、もっとも軽視」「歴史を反省せず、個人的な執念で9条の崇高な理念を捨ててしまっているのか」と強調。オリンピックの政治利用や、新しい元号の施行などのねらいも指摘。まさに九条に的を絞った新たな国民への挑戦でもあり、九条の会などの活動に期待を寄せられました。

講演後の質疑も活発で、講演の内容が深まりました。初めての参加者も多く、アンケートには、「分かりやすい話で、よく分かった。」との感想が多く寄せられ、地元新聞が、講演内容を1面トップで報道するなど、安倍首相による九条壊憲発言後の、タイムリーな集会となりました。(事務局・東良一)

憲法施行70年を盛大に祝賀

【広島県・実行委員会】 憲法施行から70年の5月3日、広島市中区のハノーバード庭園で「5・3ヒロシマ憲法集会」(ストップ戦争法ヒロシマ実行委員会主催)が開かれ1500人が参加した。広島県平和運動センターの佐古正明議長が開会あいさつ、次いで大竹市在住の歌手、二階堂和美さんがコンラバスの伴奏で「一本の鉛筆」を歌うと熱気に包まれた。二階堂さんは「今、あら

ためて日本国憲法のすばらしさ、理想を掲げるとき」と訴えた。

メイン講演は日体大教授の清水雅彦氏。自民党の改憲草案の批判、現在の憲法の平和主義の意義、さらに戦争法など多岐にわたる問題を短時間で分かりやすく講演した。最後に木陰で聞いていた人も中央に集まり、全員で「アベ政治を許さない」のプラスターを掲げ、氣勢を上げた。

会場では集会の費用カンパも行われ、30万円を超すカンパが寄せられた。

(「広島マスコミ九条の会」No69)

“安倍政権は本気で改憲へ突進”

【群馬県・実行委員会】 2017年5月3日は日本国憲法施行から満70年の節目の日。誰よりも憲法を尊重し擁護する義務を負っているはずの総理大臣が改憲に異常なほどの執念を燃やす事態の中で、第33回群馬県憲法記念日集会は今年も群馬音楽センターの2000近い座席がほぼ満席という盛況の下で開かれました。

その内で、わが中川九条の会会員と関係者で参加した人数はちょうど40人、がんばりました。

第一部は普天間かおりさんのコンサート。「さとうきび畑」や「芭蕉布」といったおなじみの歌をはじめ、井上ひさしの遺作ともいうべき「本の上の軍隊」(こまつ座)の中で歌った「わたしたちのこころはあなのあいたいれもの」などの美しい歌声が、平和を願い沖縄を想うトークとともに聞く人の心に染み入ったのでした。

第二部は渡辺治氏(一橋大学名誉教授・九条の会事務局)が記念講演、「憲法の力と

“武力によらない平和”の実現へ」。氏は、改憲を求める運動の波がこれまでに3回あったことを年表や資料を通じて解き明かし、その中で今回の安倍政権による改憲への策動は従来と比較にならないほど“本気”だとしました。

第1(50年代の戦前への回帰志向)、第2(冷戦後のアメリカの圧力)の改憲攻勢をはね返したのは何よりも憲法の力であり、それを守ろうとする新たな共同の力であったことを明らかにしました。そして今……

戦争法(安保法制)に対する「法案反対」のたたかいは、成立後も「戦争法廃止」を求める運動として続いています。野党共闘と市民の結びつきは昨年の参院選で大きな力を発揮しました。中央(東京)だけでなく地方の変化が明らかです。

市民と野党の共同をさらに強め、平和と暮らしを守るために、改憲ではなく憲法を生かすたたかいが求められています。

(高崎市「中川九条の会ニュース」No32)

海運職場でも進む戦争体制

【海運九条の会】 海運九条の会は6月17日、東京都内で講演会を開催し、輸送機関の軍事徴用の危険などについて交流しました。

主催者あいさつした平山誠一世話人は、安倍政権は秘密保護法、戦争法、「共謀罪」法を成立させ、9条の骨抜きを図ろうとしていると指摘。「いま歴史の教訓に学ぶことが求められている。力を合わせて潮目を変え、安倍自公政権の速やかな退陣を」とよびかけました。

山口大学名誉教授の瀬瀬厚氏が「着々と

進む新たな戦時徴用—軍事主義に偏重する安倍政権をただす」と題して講演。発足した船員の予備自衛官補制度で、会社から業務命令として志願を指示され拒否すれば解雇や減給の恐れがあり、事実上の命令ではないかと指摘しました。

現場からの報告で、航空労組連絡会の和波宏明事務局次長は、航空機はテロやジャックに狙われやすい乗り物だと指摘。一方で、航空会社が指定公共機関になっていることにふれ、「強制的に動員される動きがある」と語りました。

平山氏は、予備自衛官補制度の発足、民間船舶の軍事徴用がすすんでいる現状を報告。「戦後、『戦争の海は嫌だ』という思いから海員不戦の誓いにつながった。平和な職場でなければ未来はない」と強調しました。

漱石から9条の心を学ぶ

【東京都足立区・千住九条の会】 千住九条の会は5月14日、第2回定期総会と小森事務局長による「夏目漱石生誕150年記念講演」&1周年記念パーティを開催。お子様2名を含む165名が参加しました。

記念講演のテーマは、「漱石と憲法九条」。小森氏は冒頭、「安倍首相が憲法施行70年の5月3日に2020年までに憲法変えると発言したことは軽視できない」とし、「国民に対して、憲法を守らねばならない首相がケンカを売った。この発言そのものが憲法違反である」と訴えました。

憲法施行70年の今年は、夏目漱石生誕150年。漱石は1867年に生まれたが、その年にドイツで強制徴兵制が始まる。漱石の

50年の生涯は、戦争の時代であり、軍国主義、徴兵制と常に対峙していた。自分の人生を徴兵制の歴史、軍国主義の歴史としてとらえ、小説の中に戦争批判を組み入れている。新聞小説家として、検閲をかいくぐり、読者に情報を伝えて読者と阿吽の呼吸で応答しあいながら書き続けた。私も9条の会事務局長として安倍首相と真っ向からたたかっていくとの決意を述べて講演を終わりました。熱気あふれる講演会でした。

「九の日活動」を粘り強く

【群馬県沼田市・利根沼田九条の会】 毎月9日に「利根保健生協」と「利根沼田九条の会」合同で午後1時から約1時間30分ぐらいかけて、「憲法を守り活かそう」と街頭宣伝を行っています。利根沼田九条の会のメンバーは憲法九条を守る訴えを、利根保健生協メンバーの方は介護問題と憲法など身近な憲法問題を訴えています。街宣を聞いていた人が「よくわかった」などの反応もあり、息長く続けていくことに意義を感じて頑張っています。

午後4時15分からは「沼小学区9条の会」がグリーンベル21(下之町)前の交差点で、無言のスタンディング活動を2~4人で行っています。

この場所は交通量が多く、一次停止した車やカーブする車が興味深く幕を見ていきます。2人が横断幕を持ち、他の人はティシューペーパー(憲法9条を守り25条を活かした社会を)とチラシを配ります。

この場所は高校生の通学場所でもあり、受け取りを拒否する人もいますが、多くの人は心よく受け取ってくれます。

沼小学区9条の会は何年も続けており、細々ではありますが、粘り強くこの活動を続けています。(『利根沼田九条の会ニュース』第4号)

地域からの反響に励まされつつ

【和歌山県田辺市・田辺9条の会】 田辺・9条の会は5月13日、17年度総会を開きました。以下は方針書からの抜粋です。

私たち田辺9条の会は、この2年近くの間、集団的自衛権や安保法案についての見解をチラシにまとめ、田辺市内配付の全国4紙に折り込み、紀伊民報紙上に意見広告を掲載するなどの活動をおこない、周辺町の9条の会とともにつくる紀南9条交流ネットをはじめ安保法案・安保法制に反対する地域の団体と協力・共同の取り組みをおこなってきた。

それらの行動にたいしては、多くの方々から賛同の声と支援をいただいているが、それらは、これまでにない力の発揮であると感じている。

このような危機的状況を深く認識し、賛同と交際のひろがりやをバックに、田辺9条の会は、今後、次のような活動を展開していきたい。

具体的活動…①会員の維持・拡大②「たなべ9条通信」月刊体制を維持③安保法制廃止の宣伝活動④学習活動⑤紀南9条交流ネットの活動を強化⑥共通の課題をもつ他団体と共同⑦国政選挙における協力・共同の推進⑧「南紀ピースフェスタ」への積極参加⑨世話人・事務局体制強化のため、広く世話人への参加を求める、また地区ごと

(投稿) ちょっと、うれしいこと

4月のある日のこと、元気倶楽部でおこなわれた「ロコモ体操教室」に参加しました。少し早めに行って、多目的教室でやっているコミュニティー・カフェ(「地域づくり協議会」が開いているようです)でコーヒーを飲みました。そしたら、カフェをやっている「地域づくり協議会」のおねーさんが話しかけてきて、次のような会話が交わされました。

「いつも枇杷倶楽部の交差点でスタンディングをやっている九条の会の方ですよね」、「いつもではありませんが、ときどき参加しています」、「私は九条の会の会員ではありませんが、千倉の〇〇さんという方も、時々、『今日は、九条の会で立つ日だ』と言っています。〇〇さんご存知ですか?」「私は、富浦の者ですから、外房の会員の方は、あまり存じあげないですよ」

以上のような会話でしたが、“九条の会が枇杷倶楽部前の交差点でスタンディングをやっていること、その中にわたしの顔があった”ことを覚えていらっしゃる方もあるということを知り、スタンディングのアピール効果も捨てたもんじゃないと感じました。(富浦S)

(千葉県「南房総9条の会ニュース」NO29)

世話人を求める。

(「たなべ9条通信」No121)